

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	ブロッサムジュニア仙台木町教室		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)
			7名
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)
			6名
○事業者向け自己評価表作成	令和7年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別療育をメインにスタッフとマンツーマンでの療育を行っていること。 ・ 保育士、児童指導員、専門職(言語聴覚士)の免許を持っているスタッフが在籍していて多方面の職種からの知識や経験が療育プログラム、支援に活かされていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 療育を担当するスタッフは固定化せずに、色々なスタッフと関わることが出来るようにしている。 ・ スタッフの得意分野を活かせるよう、療育プログラムを組み立てて、質の高い療育プログラムの提供を行っている。 ・ 日々の支援に関して、スタッフ間で話し合いをする時間を作り、様々な観点からアプローチ出来るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子様のご様子や保護者様のご要望で、同じ時間帯のお子様同士が関わることが出来るよう時間を作っている。 ・ 支援について、年間の研修以外にも必要に応じて随時本部スーパーバイザーによる研修を受けられるようにしている。 ・ 外部研修への参加
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の領域にこだわらず5領域にならって様々な療育を提供している ・ 大集団・小集団での療育を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容が週のなかで偏りがないよう調整し、利用者が様々な活動を経験できるよう配慮している。 ・ 音楽の分野では、箏の師範の先生の指導に基づいて行っている ・ 土曜日は基本的に個別・小集団療育で行っているが、平日の振替利用時などは放デイの集団活動に参加できるよう活動内容を調整している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お子様が見通しを持って、活動プログラムに取り組める視覚的なコミュニケーションツール(写真や絵カード、タイムタイマー等)を使用して、スケジュールを提示している。 ・ スタッフ間で内容を精査し、次回の活動につながるようアレンジしている

3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が、活動の様子をその場で見られること。 ・保護者の方も一緒に活動に参加したり、活動場面を見てもらい、お子さんだけでなく、保護者の方も療育に参加できていること 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育時間の最後には保護者の方へのフィードバックの時間を作り、お子様に関する情報共有をしている。 ・土曜日は基本的に個別・小集団療育で行っているが、平日の振替利用時などは放デイの集団活動に参加できるよう活動内容を調整している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自宅でも使用できる教材、玩具の紹介やご自宅でも出来る活動の提案、対応方法について保護者の方に情報共有している。
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の療育時間が短いこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・1コマ50分の療育時間が基本となっている為、長時間の療育は基本的に行えていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方のご要望に応じて、療育時間の延長を検討していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間での特性に対する知識差 ・スキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修などの時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ研修などを積極的に受講し、全スタッフへのフィードバックをすることでスタッフ間の知識の差を減らす ・利用者の少ないAMの時間を活用しながら時間を確保できる様にしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々への支援内容の掘り下げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者会議の十分な時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・各利用者への必要な支援内容に対して全スタッフが共通認識を持つ

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和7年3月3日

公表: 令和7年3月10日

事業所名 プロッサムジュニア仙台木町教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	2	職員の配置数は適切である	6		療育時間帯に合わせ、パートや大学生アルバイトの配置をしている	日によって誤差が生じているため均等に振り分けていく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	活動の内容によって、個室、大部屋と部屋を分けて使用している。	完全な個室空間はない為、音などの刺激が入ってしまう。なるべく音などの刺激を減らせるよう限られた活動スペースを上手に使って、活動するようにしていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		第三者による外部評価は行ってない為、今後必要に応じて検討していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		プロッサム本部研修や外部研修に参加している。	研修内容で得た知識の共有をより深く行っていきたい
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		より詳細にお子さんの情報についてアセスメント出来るようツールの見直し、改定が必要だと感じている為、今後スタッフ間で検討していきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	6	個別の記録を作成し、全スタッフが活動の内容を確認出来るようにしている。	児童発達支援の活動プログラムの立案については、基本的にその日の担当スタッフが個別で立案している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	3		母子保健や子育て支援等の関係機関との連携は出来ていないので、今後必要に応じて連携を図っていききたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		6		現在、医療的ケアが必要なお子さんの利用がない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		6		現在、医療的ケアが必要なお子さんの利用がない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4		児童発達支援センター等が主催する研修には参加出来ていないので、今後積極的に参加していききたい
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		現在、保育所やこども園、幼稚園に連れて来られているお子さんとの交流は行っていない。必要に応じて行っていききたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	5		自立支援協議会への参加は出来ていないので、今後参加出来るよう調整していききたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4	お父さんご家庭の様子を聞いてご自宅でも実践できる対応方法等について、都度アドバイスしている。	ペアレントトレーニングという名目で、家族支援は行っていないので、今後はスタッフ間で研修を受けた上で実践できるようにしていききたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6			ハロウィンなど季節イベントを通して地域住民を関わる機会を設けた。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	2		実践的な避難訓練は行えていないので、今後スタッフ間で協議し、実施出来るようにしていきたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。